

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1998年(平成10年)9月25日 No. 1103

目次

サハリンプロジェクトの近況と関連事業の受注動向……………中居 孝文	1
ロシア政府指導部一覧(9月22日現在判明分)……………	12
CIS諸国通貨の最新為替レート……………	12

サハリンプロジェクトの近況と関連事業の受注動向

—日本企業の巻き返しは可能か—

はじめに

総投資額250億ドルといわれるサハリン-I、サハリン-II両プロジェクトが本格始動して2年以上が経過した。その間、両プロジェクトにおける作業は着々と進み、サハリン-IIでは来年夏にも石油の生産が開始される予定である。

サハリンプロジェクトの経緯と概要、1997年上半年期までの動きは拙稿「PS契約発効後のサハリンプロジェクト」(『ロシア東欧貿易調査月報』、1997年7月)の中ですでに述べた。したがって、本稿では1997年下半年期から1998年上半年期にかけてのサハリン両プロジェクトの進捗状況と関連請負事業の受注の動向を各種報道をもとにして探る。なお、便宜上、本稿では先に生産を開始するサハリン-II、続いてサハリン-Iの順に記述する。

1. サハリンプロジェクトの進捗状況

(1) サハリン-II

1997年12月31日、サハリン-IIの事業主体であるサハリン・エナジー社は、ピリトゥン・アストフ鉱区での開発準備段階を完了し、アストフ鉱床の生産開発段階(第1フェーズ)に着手する旨をロシア側に正式に通知した。ピリトゥン鉱床を含めた同鉱区の全面的な開発までの第1フェーズに要する費用は約7億ドル、そのうち約半分の3億4,800万ドルは日本輸出入銀行、欧州復興